

## 改善報告書

令和2年7月24日

1. 大学名：太成学院大学

2. 認証評価実施年度：平成29年度

3. 「改善を要する点」の内容

基準項目：2-1

○経営学部現代ビジネス学科、人間学部子ども発達学科及び心理カウンセリング学科の収容定員充足率が0.7倍未満であるため、具体的な改善を要する。

4. 改善状況及び結果

基準項目2-1について

経営学部現代ビジネス学科、人間学部子ども発達学科及び心理カウンセリング学科の収容定員充足のために、入学定員確保および退学者防止策を重点項目と位置づけ取り組んでいる。特に入学定員を充足することを最重要施策とし、以下に示す(A)～(E)の取り組みをおこなった。その結果、3学科ともに志願者を増やす結果につなげることができ、最小1.4倍から最大8.5倍を超える志願者数となった。合格者においても入学定員を充足する合格者を確保することができた。その結果、人間学部心理カウンセリング学科では令和元年・令和2年度、経営学部現代ビジネス学科では平成30年・令和元年・令和2年度において入学定員を充足し、人間学部子ども発達学科においても入学定員充足には至っていないものの、令和元年度入試は入学定員充足率0.76、令和2年度入試においては0.98に改善した。【資料 2-1-1～4】

(1) 入学定員充足のための具体的な取り組み

- (A) 本学に興味をもっていただいた方に選んでいただける学部・学科にするために、オープンキャンパスに参加したものの本学を受験しなかった方に対する「非出願者アンケート」調査を平成30年度より実施している。この調査で本学の各学部・学科のイメージや印象、改善を要する点・十分に伝えられていない点について把握することとした。平成30年度に実施した平成29年度参加者に対する調査で「成長できるイメージが参加者に伝えきれていない」との結果が得られたので、オープンキャンパスの各プログラムにおいて「成長できる大学・成長する大学」を伝えることを意識して取り組んできた。
- (B) 直接受験生に大学を知っていただける場として重点をおいているオープンキャンパスにおいて、学生スタッフ主催のオープンキャンパスや個別相談会の開催をおこなうことで、来学者に本学での成長を見ていただける場を設けた。これらの開催にあたって、学生スタッフは企画・立案・運営を入試課員とおこない、体験実習等では教員と内容の検討をおこなうなど、在学生の学びの

モチベーションの向上にもつながるイベントとなった。オープンキャンパスにおける学生スタッフの活動をみていただくことで、受験生や保護者には大学生活のイメージを具体的に持っていただける機会となった。

- (C) 毎年の入試結果から入試制度の見直し・改善をすすめ志願者増に取り組んできた。令和元年度入試において、人間学部・経営学部の各学科を対象に推薦入試の推薦基準や評価基準を見直し、高等学校からの推薦強化施策を図った。また奨学金制度を改定・新設し、全入試制度にて活用できる給付型の奨学金制度を充実させ、経済的支援もおこないながら受験しやすい入試制度への改善に取り組んだ。さらに令和2年度には高大接続改革を踏まえた入試として本学で学ぶ意欲を評価する「WE(Willingness Evaluation 選考)」を新設し、多面的に受験生を評価する入試制度の拡充を図った。
- (D) 平成30年度入試では経営学部の志願者数が入学定員の3倍を超え入学定員を充足する入学者となった一方、人間学部子ども発達学科・心理カウンセリング学科では入学定員未充足となった。また近年本学の周辺他大学で本学と同系統の学部・学科の新設や改組が行われたことなど、入試結果及び本学を取り巻く環境の実態に合わせて入学定員の見直しを検討し、令和2年度募集より入学定員を経営学部現代ビジネス学科は40名から60名に、人間学部子ども発達学科及び心理カウンセリング学科はそれぞれ50名から40名に変更し収容定員の充足に努めた。
- (E) 本学への興味関心を増幅させ、志願していただくためにWEBを活用した幅広い広報活動と、高等学校や日本語学校で開催される進学説明会に積極的に参加することを組み合わせることで、認知度アップと第一志望大学への喚起を図った。平成30年度より高校生がみたくなるサイト・見てわかるサイトを意識し、受験生応援サイトの立ち上げのため検討をおこない、令和元年度に受験生応援サイトを開設した。既存の学外ホームページよりもスマートフォンやタブレットで閲覧することを意識した構成とし、知りたいことがわかるサイトを意識してタイムリーな情報発信に努めている。あわせてSNSを使用し受験生が気軽に問合せできる導線と体制を充実させ、受験生の不安解消としてオープンキャンパスとともに直接広報を行う場として活用している。

入学定員を充足することによって、収容定員も増加となり、令和2年度5月1日現在経営学部現代ビジネス学科では収容定員充足率1.44に、人間学部心理カウンセリング学科では0.82と0.7を超えるまでに回復している。人間学部子ども発達学科においては0.65ではあるが、令和2年度の定員変更と入学定員充足率0.98であること、さらに学科での個々に対する大学生活・学修支援、また退学防止に努めていることから他学科と比較しても低い退学率なので収容定員充足は今後改善すると考えている。

【資料2-1-4~5】

5. エビデンス（根拠資料）一覧

基準項目 2-1 の資料

- 【資料 2-1-1】 志願者数の推移及び志願倍率の推移
- 【資料 2-1-2】 合格者数の推移
- 【資料 2-1-3】 入学者数の推移及び入学定員充足率の推移
- 【資料 2-1-4】 在籍学生数の推移及び収容定員充足率の推移
- 【資料 2-1-5】 退学率の推移